



相手を大切にすること

学校長 三瓶 徹

中国の有名な「論語」の中に、次のような一節があります。

孔子は、弟子の子貢（しこう）が「たった一言で、一生涯これを行うべき指針となる言葉は何ですか。」とたずねたとき、「それは『恕（じょ）』である。自分にしてほしくないことは、他人にしてはならないということだ。」と答えたといひます。孔子の説く「恕」の精神は、自他の尊厳を基盤とする人権意識に通じるものがあるといひます。

さて、この「人権」とは何でしょうか。辞書を引いてみますと「人間が人として本来もっている権利」と書かれています。人間は生まれながらにして生きる権利があるように、人として本来もっている権利が誰にでもあります。つまり、人間が、人間として、人間らしく生きる権利なのです。みなさんも、家庭や学校での道徳、学級活動等で学習していると思いますが、人権を尊重する、守ることの大切さを、絶えず考えあっているかなければなりません。

今月10日は、国連で「世界人権デー」と定めています。人権を守ることの大切さをうたいあげた「世界人権宣言」が成立したのが1948年12月10日であったからです。それで12月10日を人権デーとし、その前後を人権週間と名づけ、いろいろな行事を行って、人権に対する意識を高めています。本校でも、2日から8日までを人権週間とし、人権についての学習を深めます。

昨今の社会や学校では、残念ながら、いじめや暴力といった人権を侵害する事件、できごとがさまざまに起きています。人間は誰でも「わがまま」な気持ちをもっています。しかし、それは家庭や学校での教育によって「我慢すること」、「自分を抑えること」を教えられます。つまり、自分にしてほしくないことは他人にもしてはならないことを知るのである。この「自己抑制力」は、きまりを守ることによって身に付き、きまりを守ることを通して、より優れた人間に成長し、立派な社会人となるのである。学校は、その基礎的な集団社会の規範を学ぶところなのである。そして、思いやりの心やお互いの立場の違いを認め合う心の寛大さ、「豊かな心」が育っていくのである。

人間は、人間として誰でも平等に幸福に生きる権利をもっています。それを認め合うことが人間社会では大切なことであり、自分を大切にすること、相手を大切にすることをもつことが必要です。みんなで、ますます楽しい学校生活を築くために、一人ひとりの心の中に深く刻み込んで、日々の活動に励んでください。